



ビジョンから現実へ
生成AI導入への道のり

2024年12月

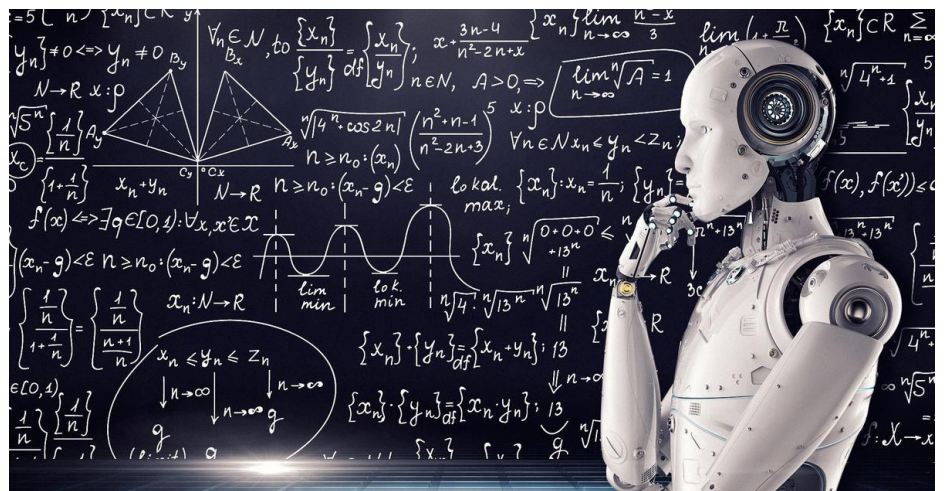
デロイト トーマツ コンサルティング

1. はじめに	3
2. 生成AI調査結果	4
3. 生成AIエコシステム	7
4. 導入計画の策定	8
5. データがすべて	9
6. 生成AIのビジネスケース開発	13
7. 生成AIのリスクと軽減策	15
8. 人材に関する視点	17
9. チェックリスト	19
10. 結論	24

1.はじめに

急速に進化するデジタル環境において、生成AI (Gen AI) の導入はもはや未来の概念ではなく、先進的な組織にとって差し迫った現実となっています。企業が競争力とイノベーションを維持しようと努力する中で、生成AIを理解し活用することは、成長と効率性のための比類のない機会を提供します。

デロイトトーマツコンサルティングが実施した最近の調査では、日本およびインバウンド組織における生成AIの導入状況が判明しました。多くの組織が生成AIに注目し、ITロードマップに組み込んでいるにもかかわらず、生成AIの導入を開始したのはわずか12%に過ぎません。このホワイトペーパーでは、調査結果を詳しく分析し、組織が自信を持って生成AIの導入を開始できるよう価値ある洞察と戦略的な手引きを提供します。



2. 生成AI調査結果

今回の調査により興味深い事実が明らかになりました。多くのCIOが生成AIプログラムの開始を命じている中、戦略的アプローチの開発と実行可能なユースケースの特定という複雑な問題に引き続き直面しています。CIOの間で広く懸念されているのは、投資収益率（ROI）と、生成AIプロジェクトの資金を確保するための説得力のあるビジネスケースを作成しなければならないという問題です。

Q1 - 生成AIをITロードマップに組み込んでいるか。

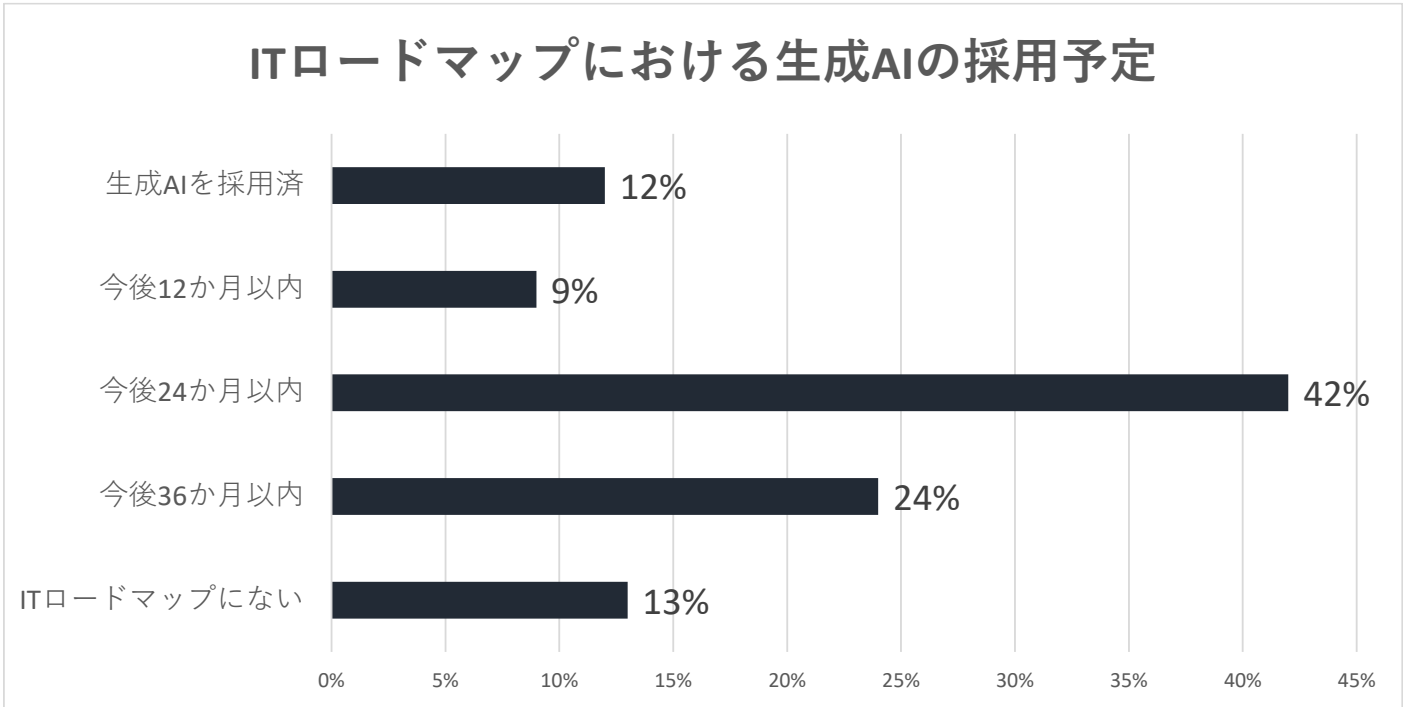
図に示されているように、調査対象組織の12%がすでに生成AIへの取り組みを開始しています。これは、高度

なAIテクノロジーを業務に統合するという積極的なアプローチを反映した結果です。

注目すべきところは、企業の9%が今後12カ月以内に生成AIの導入を開始する計画を立てている点です。これは、競争環境の中で優位に立つことに強い関心があることを表しています。

最も高い42%の回答が集まったのは、今後24カ月以内に生成AIを採用することを目標としている、という回答です。これは、多くの組織が現在調査段階にあり、戦略を策定し、生成AIの実装に適したユースケースを特定中であることを示唆しています。

生成AI導入の現状と予定タイムライン



出所:デロイト トーマツ コンサルティング調査（2024年10月）

さらに、24%の組織は今後36カ月以内に生成AIへの取り組みを開始する計画を立てています。このグループは、リソースの制約やより包括的な計画の必要性のため、より慎重なアプローチをとっています。

最後に、13%の組織はITロードマップに生成AIを未だ含めていません。このグループは、認識の欠如、ROIへの懸念、その他の戦略的優先事項など、導入に対する潜在的な障壁を抱えています。

いくつかの組織は現在、ERPの大規模なアップグレードを行っており、これらの新しいテクノロジーの実装によって提供される生成AI機能の活用を見込んでいます。全体として、日本の組織における生成AIの導入はさまざまな段階に分かれており、この変革的な技術に対する戦略的計画と投資の重要性が浮き彫りになっています。



Q2 - 生成AIを導入する上で、どのような障壁が予想されるか。

生成AIを導入するうえでの主な懸念が何かを調査した結果、いくつかの重要な課題があることが明らかになりました。

1. **ユースケースの特定**：74%の組織が、生成AIに適したアプリケーションを特定し、具体的なメリットを見出すことが難しいと回答しました。
2. **投資収益率（ROI）**：84%の回答者が、測定可能な成果を実証し、資金調達のための説得力のあるビジネスケースを構築することに苦戦していることが明らかになりました。
3. **リソースの制約**：81%の回答者が、生成AIプロジェクトに十分な資金、インフラ、人材を割り当てることが難しいと回答しました。
4. **チェンジマネジメント**：72%の組織が内部からの抵抗に直面し、イノベーションを受け入れる文化を醸成することが困難であると感じていることがわかりました。
5. **技術的な統合**：38%の回答者が、既存のITインフラストラクチャとのシームレスな統合を確保する上で課題に直面していることがわかりました。

その他の注目すべき課題として、規制および倫理上の懸念への対応、全体的なビジネス目標との戦略的整合の達成などが挙げられます。さらに、回答者の37%は、生成AIへの取り組みを開始する際の主な障壁は、どこから始めればよいのかわからないことだと述べていました。

Q3 - 生成AIのフェーズ1／パイロット展開で採用すべき 主なユースケースは何か？

生成AIの導入を開始した回答者は、他の組織で成功したパイロットやロールアウトから特定されたユースケース、及びその分野の専門家からの推奨された事項を取りあげています。

カスタマーサービスチームは、AIを搭載したチャットボットやバーチャルアシスタントを利用して、顧客からの問い合わせに対応し、24時間365日のサポートを提供し、応答時間を短縮しています。CFOは特に、データ分析とレポート作成を自動化し、インサイトをもとにレポートを作成して、データ駆動型の意思決定をより効率的にする生成AIの機能に興味を示しています。

採用及びHRサポート分野において、CHROは生成AIを活用して採用プロセスを強化し、人事スタッフのスケジュールリング、タスク管理、よくある質問への回答の支援などで、生産性を向上させることを検討しています。

内部監査部門とリスク管理部門、金融サービス部門では、不正検出が重要なユースケースとして認識されています。AIアルゴリズムは、金融取引や保険金請求における不正行為を特定し、防止するために使用されます。

運用チームは、予測メンテナンスにAIを活用し、機器の障害を予測してメンテナンスをスケジュールすることで、ダウンタイムと運用コストを削減しています。IT部門は、パスワードのリセットやシステムのトラブルシューティングなどの日常的なITサポートタスクを自動化するAIソリューションを試験的に導入し、ITスタッフの工数をより複雑な問

題に割り当てられるようにしています。

業界の視点

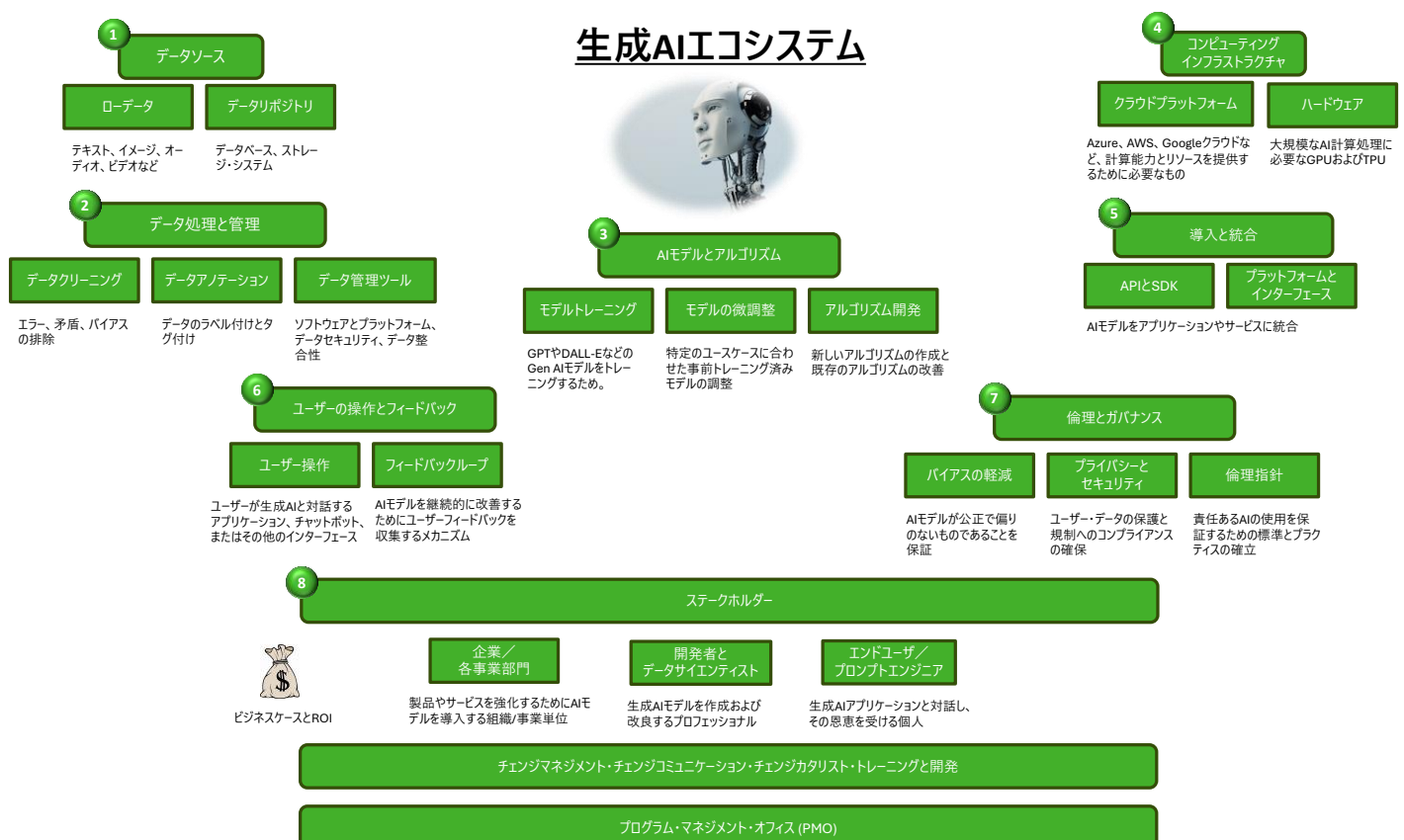
日本市場では、保険及び消費財業界が早期導入を検討する業界として浮上しており、AIを活用して業務を効率化し、顧客体験を向上させ、イノベーションを推進しています。一方、自動車及びライフサイエンス業界は、このようなトレンドに徐々に追いつきつつあります。テクノロジーが進歩し、許容可能なROIと説得力のあるビジネスケースが実証されるにつれて、今後6~12か月の間に、生成AIの導入に多額の予算が割り当てられることが予想されています。



3. 生成AIエコシステム

生成AIエコシステムは、コンテンツを生成できるAIモデルの構築、展開、利用に不可欠な動的で多面的な環境といえます。その中核は、テキスト、画像、音声、動画など、さまざまなデータソースで構成されており、クレンジング、アノテーション、および管理ツールを通じて品質を担保するための処理および管理がなされています。このデータは、トレーニング、微調整、および継続的な開発が進められるAIモデルとアルゴリズムの原動力となります。エコシステムは、大規模なAI計算を処理するために、クラウドプラットフォームやGPU、TPUといった高性能ハードウェアを含む堅牢なコンピューティングインフラストラクチャによって支えられています。デプロイメントとインテグレーションは、AIモデルを実際のアプリケーションにシーム

レスに組み込むことができるAPI、SDK、およびプラットフォームによって円滑になります。ユーザーとの対話やフィードバックは、AIモデルを改良し、時間の経過と共にパフォーマンスを向上させる上で重要な役割を果たします。エコシステムはまた、バイアスに対処し、プライバシーとセキュリティを確保し、倫理ガイドラインを遵守することによって、倫理とガバナンスを優先できるようになっています。開発者、データサイエンティスト、企業、エンドユーザーを含むステークホルダーは、生成AIエコシステムへの貢献と共にそのメリットを享受し、イノベーションと効率化を促進します。このエコシステムは、データ、テクノロジー、倫理的考慮事項の相互作用を重視し、AIの可能性を押し広げます。



4. 導入計画の策定

すべてはユースケースの特定から始まります

生成 AIのユースケースを特定するには、戦略的アプローチと、組織のニーズ及び目的を十分に理解することが必要です。生成AIが最も価値を付加できる領域を特定するために、まずビジネス目標を評価することから始めます。

課題から結果までの観点では、組織内で重大な課題や非効率性に直面している領域を特定します。既知の生成AIの能力によって、これらの課題を克服するために必要な結果を定義できます。

プロセス観点では、エンド・ツー・エンドのプロセスをキーストロークレベルで調査し、データリネージ（データの変遷・系譜）を追跡して、プロセスの改善、データ使用の強化、作業の最適化など、生成 AIによる付加価値を特定します。

投資収益率（ROI）観点では、生成AIの実装による金銭的なメリットと定量的なリターンを計算します。

コンプライアンス観点では、大規模言語モデル（LLM）を活用して、コンプライアンスプロセスの自動化、異常の検出、規制要件に関する包括的な洞察などを提供します。さらに、**環境と倫理への考慮**がユースケースの選択においてなされようすることで、テクノロジーが社会的責任を持って実装されるようにします。

さまざまな部門の関係者と協力し、同業界で成功した事例のベンチマークを行い、特定分野の専門家に相談

することで、組織内で意義深い価値とイノベーションを促進するユースケースを戦略的に特定し実装することができます。



planning
process

5. データがすべて

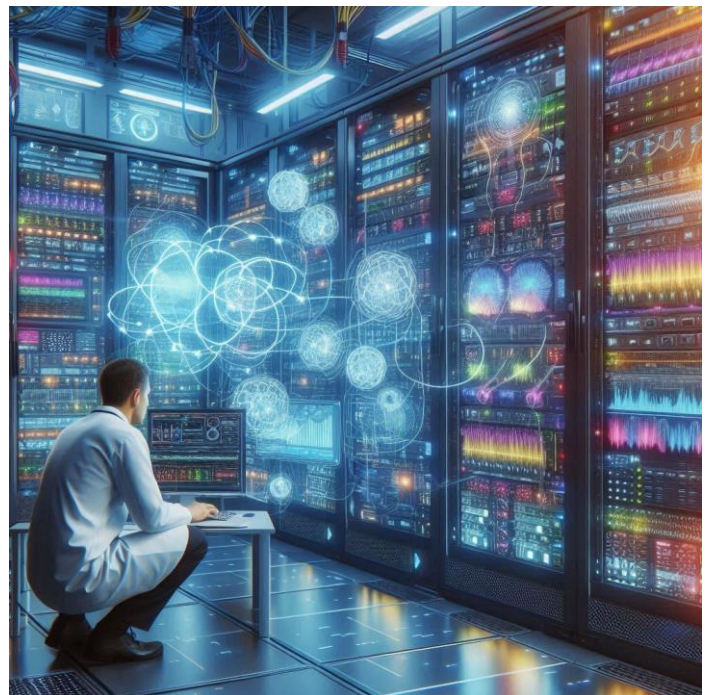
生成 AIは、データの活用にすべてが掛かっています。生成AIの中核は、学習プロセスを促進するデータの豊富さと多様性に依存します。モデルによって生成されるアウトプットの品質は、トレーニング対象のデータの品質と包括性に比例します。データは、これらのモデルが理解を深め、新しい洞察に満ちたアウトプットを生成するための基盤として機能します。

データを効果的に管理し、準備することで、組織は生成AIの可能性を最大限に引き出し、イノベーションと効率化を促進できます。このデータ中心のアプローチにより、AIモデルは信頼性の高さだけでなく、新しい情報や進化するニーズに適応して継続的に改善することができます。本質的に、組織がデータをより効果的に活用できれば、生成AIイニシアチブはより強力な影響力のあるものになります。

データの準備

AIプロジェクトを成功させるには、データの準備が不可欠です。モデルを効果的にトレーニングするのに十分な量で、データが特定のユースケースと目的に関連していることを確認する必要があります。モデルをさまざまなシナリオで適切に一般化できるようにするためには、エラーや矛盾のない高品質のデータが重要であり、データの多様性も重要です。適切にアノテーションされたデータは、教師あり学習による生成 AIモデルのトレーニングに必須であり、データを最新の状態に保つことで、モデルが現在のタスクで適切に実行されるようになります。データ

ソースから最終的な使用段階までの過程を追跡するデータリネージを理解することは、データの品質と透明性を維持するのに役立ちます。機密データを保護し、データプライバシー規制を確実に遵守するためには、セキュリティおよびプライバシー対策が堅牢である必要があります。さらに、AIのアウトプットの公平性を確保するためにはデータのバイアスを特定して対処することが必要です。また、データインフラストラクチャは、大量のデータを処理し、組織の増大するニーズをサポートするために拡張可能である必要があります。これらの要件を満たすために、組織は生成AIプロジェクト用にデータを十分に準備し、それにより正確で信頼性の高い、効果的なAIモデルを実現できます。

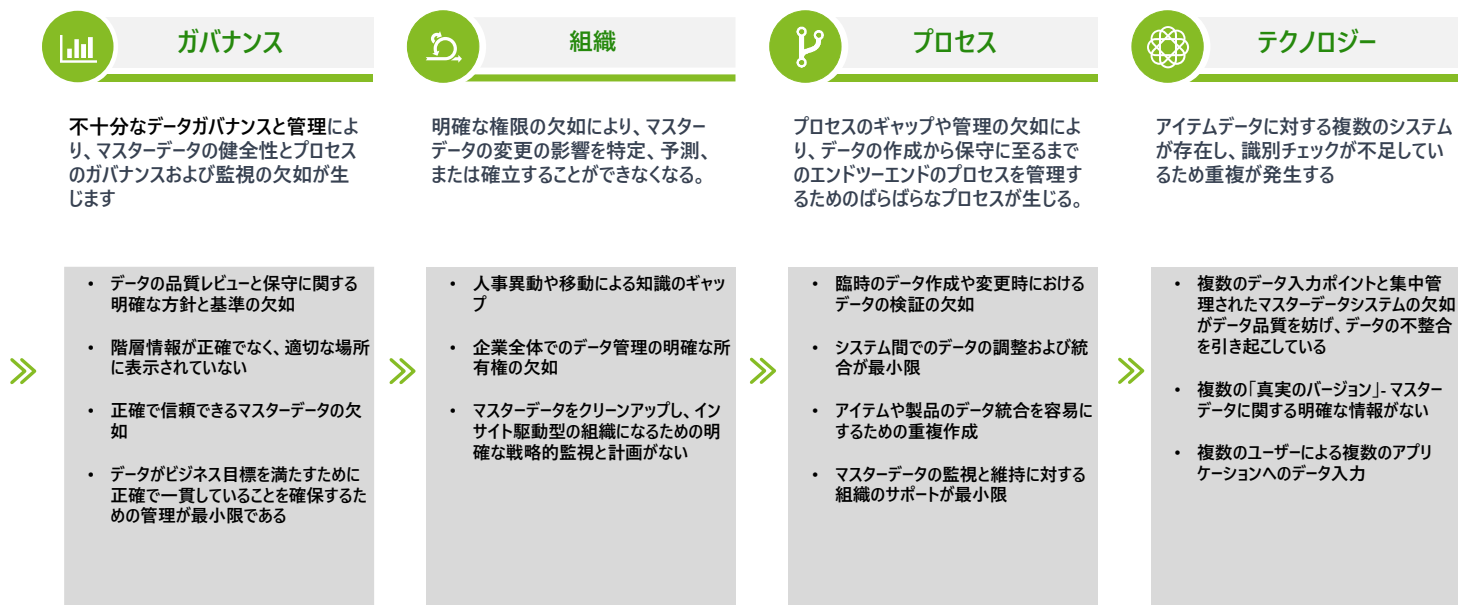


最優先にすべきこと：マスターデータのクレンジング

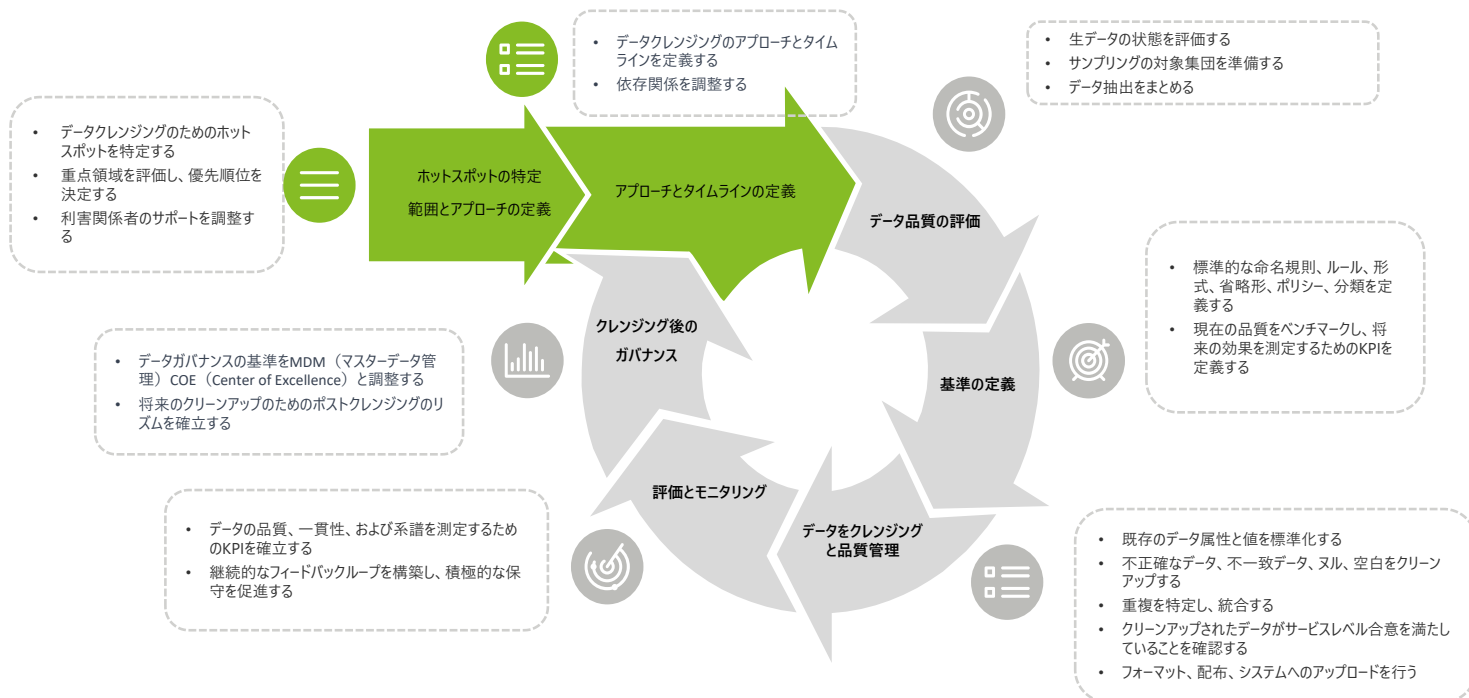
マスターデータは、あらゆる組織の基盤です。しかし、調査を行った多くの組織では、マスターデータ管理 (MDM) を優先することができないまま年々複雑化しており、組織が生成 AI の取り組みを開始する前に解決すべき重要な課題となっ

これらの課題に対処するには、適切なテクノロジーへの投資、データ品質の文化の育成、強力なデータガバナンスのプラクティスの確保など、戦略的なアプローチが必要です。これらの問題を克服することで、組織はデータの可能性を最大限に引き出し、ビジネスの成果をより発揮できるようになります。

MDMに関連する主な課題を以下にまとめます。



デロイト トーマツは、マスターデータ管理の問題を解決するための構造化されたアプローチを推奨します



マスターデータクレンジングプロセスは、生成AIプロジェクトのデータ品質と精度を確保するために必須です。これには、データのホットスポットの特定と優先順位付け、アプローチとタイムラインの定義、データ品質の評価、標準的な命名規則とルールの確立などが含まれます。このプロセスには、既存のデータの標準化、誤ったデータのクレンジング、重複データの統合、およびシステムにアップロードする前のデータの正確性の確認などが含まれます。継続的な評価と監視は、フィードバックループとクレンジング後のガバナンスと共に、データ品質と規制に対するコンプライアンスを維持するのに役立ちます。

明確に定義され、綿密に実行されたデータクレンジングプロセスを持つことが最も重要です。データの不整合、エラーまたはバイアスは、モデルのパフォーマンスと信頼性を著しく損なう可能性があります。堅牢なデータガバナンスと継続的な改善プラクティスに投資することで、組

織はAIモデルの有効性を高めるだけでなく、継続的なイノベーションと効率性のための強固な基盤を構築することができます。データリネージを採用し、データの管理方法と変換方法の透明性を確保することも同様に重要です。このアプローチにより、信頼性が構築され、コンプライアンスが促進され、プロジェクトで使用されるデータが正確かつ実用的であることが保証されます。

この包括的なアプローチにより、データが適切に準備され、より正確で効果的なAIモデルにつながり、最終的にはビジネスの成果を向上させ、継続的な改善とイノベーションの文化を育むことができます。

データリネージが信頼を勝ち取る

データリネージとは、データがライフサイクル全体を通じてデータソースから最終使用までどのように移行および変換されるか、その系譜を記録するものです。本来は1980年代から監査ツールとして使用されていましたが、その役割は進化し、生成AIにおける戦略的なゲームチェンジャーとなりました。データのジャーニーを理解することは、信頼の構築、コンプライアンスの確保、データ品質の向上に不可欠です。

生成AIにおけるデータリネージの重要性は多面的です。

- **透明性**：データが AI モデルを通過する際の透明性を確保します。
- **品質**：生成AIのアウトプットの精度と信頼性を維持します。
- **コンプライアンス及びガバナンス**：より厳しい監査および規制要件への対応をサポートします。
- **エラー検出**：モデルが稼働したときに、問題の早期特定と解決を促進します。

全体として、データリネージは「データのストーリーを語る」ものであり、AI に参入する組織にとって必須ツールとなっています。堅牢なデータリネージプラクティスを活用することで、AIモデルが高品質で信頼できるデータの強力な基盤の上に構築され、より正確で効果的な結果が得られるようになります。

6. 生成AIのビジネスケース開発

経営陣の賛同とプログラムに必要な予算を確保するには、説得力のある強固なビジネスケースを開発することが不可欠です。ここでは、投資を正当化するだけでなく、生成AIが組織にもたらす戦略的価値を取り上げます。プロジェクトチームは、定量的要因と定性的要因の双方を考慮してさまざまな側面を綿密に評価し、この最先端のテクノロジーが採用されるための説得力のあるケースを構築します。

1. 問題または機会の定義

- プロジェクトが対処しようとしている問題または機会を明確にします。市場調査、顧客からのフィードバック、社内のパフォーマンス・メトリックなど、ケースをサポートするデータとエビデンスを用意します。

2. 明確な目標の設定

- プロジェクトの具体的な目的を概説します。測定可能で、達成可能で、関連性があり、期限付きであることを確認します。例えば、今後12か月以内に運用コストを15%削減する、といったことを掲げます。

3. メリットの評価

- プロジェクトがもたらすメリットを特定し、定量化します。可能であれば、選択した各ユースケースから定量評価可能なメリットを特定します。これには、財務上のメリット（例：コスト削減、収益成長）、運用上のメリット（例：効率化、エラー削減）、戦略上のメリット（例：競争優位性確保、顧客満足度向上など）が含まれます。

4. コストの分析

- プロジェクトに関連するコストの詳細な分析を提供します。これには、初期導入コスト、継続的な運用コスト、および隠れた間接コストが含まれます。1回限りの費用と繰り返し発生する費用の両方を計上します。
- 生成AI実装におけるコスト要因：
 - ・ コンピューティングコスト：クラウドコンピューティングの処理能力にかかる費用。ほとんどの組織は、クラウドサービスプロバイダーと年間契約を結んでいます。これは、コスト構造を準備するための適切なインプットになります。
 - ・ データ準備：データの保存と処理を含む、データの収集、クレンジング、および準備のコスト。
 - ・ モデル開発：研究開発、ソフトウェアライセンス、および事前トレーニング済みモデルへのアクセスに関連する費用。
 - ・ 人材：熟練したAI 専門家の雇用、またはサードパーティの専門家やコンサルティング会社へのアウトソーシング。
 - ・ インフラストラクチャ：GPU、サーバ、その他のコンピューティングリソースなどのハードウェアおよびソフトウェアインフラストラクチャの設定。

- メンテナンスとアップグレード：パフォーマンスの監視、モデルの再トレーニング、セキュリティとコンプライアンスの確保のための継続的なコスト。
- 統合：生成AIソリューションを既存のシステムやワークフローと統合するために必要なリソースと専門知識。
- 隠れたコスト：電力消費、冷却、その他の運用コストなどの追加コスト。

5. リスクの評価

- プロジェクトの成功に影響を与える可能性のある潜在的なリスクと課題を特定します。各リスクの可能性と影響を評価し、それらに対処するための軽減方法を提案します。このセクションの一環として、リスク軽減の取り組みに対する説明責任を確保するために、各リスク領域にオーナーを割り当てます。

6. 導入計画の概要

- 主要なマイルストーン、スケジュール、リソース要件を含む包括的な導入計画を作成します。チームメンバーと利害関係者の役割・責任を明確に定義します。

7. 財務分析の実行

- 財務分析を実施して、プロジェクトの投資収益率 (ROI)、正味現在価値 (NPV)、投資回収期間を評価します。これは、利害関係者がプロジェクトの財務的実行可能性を理解するのに役立ちます。各ユースケースを個別に分析してから統合し、より適切に管理できるようにすることが理想的です。

8. ステークホルダーの支持を集める

- 早い段階で主要な利害関係者を関与させ、彼らのフィードバックを取り入れます。プロジェクトの価値を理解し、プロジェクトの成功にコミットしていることを確認します。

7. 生成AIのリスクと軽減策

プロジェクトの成功に影響を与える可能性がある潜在的なリスクと課題を特定することが重要です。各リスクの顕在化可能性とその影響を評価し、それらに対処するための軽減策を提案します。さらに、リスク軽減の取り組みに対する説明責任を確保するために、各リスク領域にオーナーを割り当てます。

潜在的リスクと軽減策

1. データ品質と可用性

- **リスク**：モデルのパフォーマンスに必要な不可欠な十分かつ質の高いデータの可用性に課題。
- **顕在化可能性**：高
- **影響**：高
- **軽減策**：堅牢なデータ収集、クレンジング、および前処理技術を実装。データ品質を定期的に監査し、検証する。
- **オーナー**：データエンジニアリード

2. リソースコストの計算

- **リスク**：トレーニングと推論に必要なコンピューティングリソースに関連するコストが高い。
- **顕在化可能性**：中
- **影響**：高
- **軽減策**：自動スケーリング、スポットインスタンス、コスト管理ツールによってリソース使用率を最適化する。使用状況を監視し、必要に応じて構成を調整する。
- **オーナー**：クラウドインフラストラクチャマネジャー

3. モデルのパフォーマンス

- **リスク**：生成AIモデルがパフォーマンスの期待を満たさない可能性がある。
- **顕在化可能性**：中
- **影響**：中
- **軽減策**：モデルの評価・検証を徹底する。反復的な開発と継続的な改善を実践する。フォールバックメカニズムを実装する。
- **オーナー**：機械学習エンジニア

4. 統合の課題

- **リスク**：生成AIソリューションを既存のシステムやワークフローと統合することが難しい。
- **顕在化可能性**：中
- **影響**：中
- **軽減策**：詳細な統合計画を策定する。APIベースの統合とモジュラー・アーキテクチャーを使用する。統合テストを実施する。
- **オーナー**：IT統合リード

5. セキュリティとコンプライアンス

- **リスク**：セキュリティ違反またはデータ保護規制の違反の可能性。
- **顕在化可能性**：低
- **影響**：高
- **軽減策**：強力なセキュリティプロトコル、暗号化、アクセス制御を実装する。コンプライアンス・ポリシーを定期的に見直し、更新する。
- **オーナー**：最高情報セキュリティ責任者 (CISO)

6. チェンジマネジメント

- **リスク**：変化に対する抵抗、またはエンドユーザーによる採用の欠如。
- **顕在化可能性**：中
- **影響**：中
- **軽減策**：チェンジマネジメント計画を策定。関係者を早期に関与させ、トレーニングとサポートを提供する。
- **オーナー**：チェンジマネジメントリード
- **軽減策**：コスト監視および管理ツールを実装。運用コストを定期的に見直し、最適化する。
- **オーナー**：財務管理者

7. プロジェクトのタイムライン

- **リスク**：予期せぬ課題によるプロジェクトのスケジュールの遅れ。
- **顕在化可能性**：中
- **影響**：中
- **軽減策**：アジャイルプロジェクト管理プラクティスを使用する。進捗状況を監視し、必要に応じてスケジュールを調整する。ステークホルダーとのオープンなコミュニケーションを維持する。
- **オーナー**：プロジェクトマネジャー

8. ベンダーの信頼性

- **リスク**：主要コンポーネントのサードパーティベンダーへの依存。
- **顕在化可能性**：低
- **影響**：中
- **軽減策**：ベンダーの信頼性を評価し、危機管理計画を策定する。可能であればベンダーを多様化する。
- **オーナー**：調達マネジャー

9. 運用コスト

- **リスク**：予想外の運用コストの増加。
- **顕在化可能性**：中
- **影響**：中

8. 人材に関する視点

生成 AIが業界を変革し、イノベーションを推進し続ける中、労働力への深刻な影響を考慮することは極めて重要です。この変革の中心には、人間の能力を高め、仕事の未来を再定義する可能性が秘められています。生成AIを活用することで、組織は新たなレベルの生産性、創造性、効率性を引き出すことができます。ただし、この過程では、再教育、チェンジマネジメント、倫理的な実装に対する思慮深いアプローチが必要です。このセクションでは、生成AIがどのように労働力を強化し、継続的な学習の文化を育み、変化する未来に向けて労働力を準備するかについて詳しく説明します。以下は、生成AIとFuture of workに関連する重要な側面です。

ヒューマン・エンパワーメント

生成AIは、人間の潜在能力を高め、解き放つための強力なツールとみなされています。人間の労働力を置き換えるのではなく、彼らのスキルと専門知識を強化するように設計されています。たとえば、レポートの作成、グラフィックのデザイン、パーソナライズされたマーケティング戦略の作成、日常業務の自動化などで、従業員を支援することができます。これにより、従業員はより戦略的で創造的で付加価値の高い活動に集中できるようになります。

従業員の適応

メリットを最大限に活用するに、組織は適応性があり、継続的に学習し、テクノロジーと共に進化する従業員を育成する必要があります。これには、生成AIと一緒に効果的に働くための従業員の再教育とスキルアップが求められます。トレーニングと開発の機会を提供することで、企業は従業員が生成AIで強化された職場環境

で成功するために必要なスキルを身につけられるようにすることができます。

チェンジマネジメント

生成AIを実装するには、従業員が新しいテクノロジーに参加し、受け入れる準備ができていることを確認するための効果的なチェンジマネジメントが必要です。利害関係者を早期に関与させ、利益を伝え、適切な訓練と支援を提供することは、変化への抵抗を管理し、イノベーション文化を育むために必要なステップです。

倫理的な実装

最高レベルの倫理と信頼を持って生成AIを実装することが重要です。これには、AIシステムの透明性、説明責任、公平性の確保が求められます。組織は、生成AIの使用を管理し、プライバシーを保護し、公共の信頼を維持するための倫理ガイドラインとフレームワークを策定する必要があります。

労働力の将来性確保

企業幹部は、テクノロジーがもたらす避けられない変化に備えることで、従業員の「将来性確保」に重点を置く必要があります。これには、ワークフローの見直し、従業員の役割の調整、継続的な学習と適応の文化の育成が求められます。これらの変化に積極的に対応することで、組織はレジリエントで将来に備えた労働力を構築できます。

戦略的プランニング

仕事の未来を切り開くために、組織にはシナリオプランニングによって、さまざまな将来に耐えられる戦略を策定することが推奨されます。これは、戦略的なレジリエンスを構築し、発生する可能性のあるあらゆる課題に従業員が備えられるようにするのに役立ちます。

生産性とイノベーション

生成AIは、組織内の生産性とイノベーションを大幅に向上させる可能性を秘めています。定型業務を自動化し、人間の創造性をサポートすることで、従業員はより戦略的で革新的な仕事に集中できるようになります。これにより、成果の向上、効率性の向上、市場での競争優位性を実現できます。

これらの側面に焦点を当てることで、組織は職場への生成AIの統合が、従業員にとってポジティブでエンパワーメント的な体験となるようにすることができます。このアプローチは、ビジネスの成功を促進するだけでなく、よりダイナミックで、革新的で、将来に備えた労働力を育成します。

出所:

<https://www.deloitte.com/global/en/services/consulting/research/generative-ai-and-the-future-of-work.html?form=MG0AV3>

9. チェックリスト

以下のチェックリストを効果的に使用することで、生成AIプログラムのステータスを確認できます。

タイトル	チェックリストの質問	ステータス	コメント
戦略的連携	私たちの組織の戦略的目標は何か、そして生成AIはそれらとどのように連携できるか。		
	生成AIが事業運営に付加価値をもたらす明確なユースケースを特定できるか。		
	生成AIイニシアチブの成功を測定する主要業績評価指標 (KPI) は何か。		
データ管理	生成AIモデルのトレーニングに必要な高品質で十分なデータはあるか。		
	データのプライバシーとセキュリティ、特に機密情報をどのように管理するか。		
	堅牢なデータの前処理とクレンジングプロセスがあるか。		
	データストレージ、特に大規模なデータセットをコスト効率の高い方法で処理する方法はあるか。		
テクノロジーとインフラストラクチャ	生成AIモデルのトレーニングおよびデプロイに必要な計算リソースは何か。		
	生成AIイニシアチブをサポートするための適切なクラウドインフラストラクチャを選択したか。		
	生成AIを効果的に実装するために必要なハードウェアとソフトウェアのツールはあるか。		
	生成AIシステムのスケーラビリティと信頼性をどのように確保するか。		
タレントとスキル	生成AIプロジェクトを開発し、管理するための専門リソースを社内に持っているか。		

タイトル	チェックリストの質問	ステータス	コメント
	AIとデータサイエンスのスキルを向上させるために、どのようなトレーニングと開発プログラムを実施するか。		
	生成AIプロジェクトチームの主要な役割と責任を特定したか。		
	追加サポートのための、外部の専門家や組織とのパートナーシップやコラボレーションはあるか。		
倫理的考慮	組織内で生成AIを使用するための倫理ガイドラインを確立しているか。		
	生成AIモデルとそのアウトプットの透明性と説明責任をどのように確保するか。		
	生成AIモデルのバイアスを防ぐために、どのような対策がとられているか。		
	関連する規制や業界標準へのコンプライアンスをどのように維持するか。		
リスク管理	生成AIイニシアチブに関連する潜在的なリスクと課題は何か。		
	特定された各リスクの可能性と影響をどのように評価するか。		
	これらのリスクに対処するために、どのような軽減策が実施されているか。		
	軽減策の説明責任を確保するために、各リスク領域にオーナーを割り当てたか。		
	プロジェクトのライフサイクルを通じて、どのようにリスクを監視し、レビューするか。		
チェンジマネジメント	変化への抵抗を管理し、生成AIイニシアチブに対する従業員の賛同を確保するにはどうすればよいか。		
	利害関係者に情報を提供し、関与させるために、どのようなコミュニケーション戦略をとるか。		

タイトル	チェックリストの質問	ステータス	コメント
	従業員が生成AI技術に適応するための包括的なトレーニングやサポートプログラムはあるか。		
	チェンジマネジメントの取り組みの有効性をどのように測定するか。		
財務分析	生成AIソリューションの実装と保守には、どれくらいのコストがかかると予想されるか。		
	生成AIイニシアチブの投資収益率 (ROI) と財務上のメリットをどのように測定するか。		
	予期しないコストや不測の事態に備えて予算が割り当てられているか。		
	財務上のリスクはどのようなもので、どのように軽減するか。		
生成AIエコシステム	我が組織に関連する生成AIエコシステムの主要な要素は何か。		
	生成AIの世界で、関わるべき主要なプレイヤーやパートナーは誰か。		
	我々のイニシアチブに活用できる既存の生成AIツールやプラットフォームはあるか。		
	生成AIテクノロジーの最新の進歩とトレンドについて、どう最新の情報を得るか。		
導入計画	生成AI導入のための明確なビジョンとロードマップを定義しているか。		
	生成AIイニシアチブの短期的および長期的な目標は何か。		
	生成AIプロジェクトに優先順位を付け、リソースを効果的に割り当てるにはどうすればよいか。		
	生成AIのプロジェクトやイニシアチブを監督するためのガバナンスフレームワークはあるか。		

タイトル	チェックリストの質問	ステータス	コメント
データがすべて	どのようなデータソースが利用可能で、生成AIプロジェクトにどのように関連するか。		
	データの品質と完全性をどのように確保するか。		
	データの収集、保存、管理のためのプロセスはあるか。		
	データのプライバシーとセキュリティ、特に機密情報をどのように扱うか。		
	データを継続的に更新し、充実させるためにどのような戦略を使用するか。		
ビジネスケースの開発	生成AIが対処できる具体的なビジネス上の問題や機会は何か。		
	生成AIイニシアチブのメリットとROIをどのように測定するか。		
	生成AIソリューションの実装と保守には、どれほどのコストがかかると予想されるか。		
	主要な利害関係者は誰で、どのように生成AIプロジェクトへの支援を得るか。		
	成功の指標は何か、進捗状況はどのように追跡するか。		
リスクと軽減策	生成AIイニシアチブに関連する潜在的なリスクと課題は何か。		
	特定された各リスクの可能性と影響をどのように評価するか。		
	これらのリスクに対処するために、どのような軽減策が実施されているか。		
	軽減策の説明責任を確保するために、各リスク領域にオーナーを割り当てたか。		

タイトル	チェックリストの質問	ステータス	コメント
	プロジェクトのライフサイクルを通じて、どのようにリスクを監視し、レビューするか。		
ピープル・パースペクティブ	生成AIは労働力にどのような影響を与え、どのように役割が変わるか。		
	生成AIで従業員のスキルを向上させるには、どのようなトレーニングと開発プログラムが必要か。		
	変化への抵抗をどのように管理し、従業員の賛同を確保するか。		
	ステークホルダーに情報を提供し、関与させるために、どのようなコミュニケーション戦略を使用するか。		
	生成AIの倫理的な実装を確保し、公共の信頼を維持するにはどうすればよいか。		

10.結論

生成AIを概念から現実へと転換を図る今は、進化し続ける環境で競争力を維持しようとしている組織にとって極めて重要な瞬間です。その可能性を最大限に引き出すには、明確な目標、堅牢なデータ管理、倫理的考慮、継続的改善へのコミットメントを含む、戦略的で適切に構造化されたアプローチを採用することが必要です。私たちはアドバイザーとして、生成AIの取り組みを組織の目標と連携させ、経営陣の賛同を得て、適応性とイノベーションの文化を育むことの重要性を訴えます。企業は従業員の再教育やスキルアップに投資することで、従業員が生成AIを効果的に活用できるようにし、生産性と創造性の両方を向上させることができます。さらに、倫理的な活用と責任あるガバナンスは、信頼とコンプライアンスを維持するために最も重要です。この変革の旅に乗り出すにあたり、私たちは専門知識でお客様をサポートし、複雑な課題を克服し、持続可能な成長と成功を達成するための可能性を最大限に引き出せるよう支援します。

コンタクト



首藤 佑樹
Yuki, Shuto

デロイト トーマツ コンサルティング 執行役員
Chief Growth Officer
(戦略・アライアンス・イノベーション・Gen AI
を含む先端技術統括)



Pankaj Arjunwadkar

デロイト トーマツ コンサルティング 執行役員
グローバル インバウンド グループ
生成AIプラティクショナー

Chief Growth Officerとして戦略・アライアンス・イノベーション・AIを含む先端技術等を統括する。また、テクノロジー・メディア・通信インダストリーのアジアパシフィックリーダーを務め、事業戦略策定、組織改革、デジタルトランスフォーメーション等のプロジェクト実績が豊富である。米国への駐在経験もあり、日系企業の支援をグローバルに行ってきた。

Deloitte Asia Pacific Technology, Media, and Telecommunications
Industry Leader

グローバルビジネス部門のパートナーとして、海外から日本へのインバウンドクライアントに対応しています。主に経営戦略や事業運営、金融シェアードサービス、PMI、デジタルファイナンスコンサルティングで23年以上の経験を有し、インドをはじめ、アジア、北米、ヨーロッパ、中東のグローバル企業の財務改革プロジェクトをリードしてきた。現在は、日本の顧客に向けてAIおよび生成AIツールに関するソートリーダーシップを発揮する様々な取り組みを進める。

Deloitte. デロイト トーマツ

デロイト トーマツグループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイト ネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ 合同会社ならびにそのグループ法人（有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ リスク アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンス アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人、DT 弁護士 法人およびデロイト トーマツ グループ 合同会社を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスク アドバイザリー、コンサルティング、ファイナンス アドバイザリー、税務、法務等を提供しています。また、国内約30都市に約2万人の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト、www.deloitte.com/jpをご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド（“DTTL”）、そのグローバル ネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイト ネットワーク”）のひとつまたは複数の指しします。DTTL（または“Deloitte Global”）ならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。DTTL および DTTL の各メンバーファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。DTTL はクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。デロイト アジア パシフィック リミテッドはDTTLのメンバーファームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィック における100を超える都市（オーストラリア、バンコク、北京、ベンガルール、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、ムンバイ、ニューデリー、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンス アドバイザリー、リスク アドバイザリー、税務・法務などに関連する最先端のサービスを、Fortune Global 500®の約9割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの革新と繁栄を促し、より豊かな経済、公正な社会、持続可能な世界の実現に向けて自ら率先して取り組むことを通じて、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来175年余りの歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters”をパーパス（存在理由）として標榜するデロイトの45万人超の人材の活動の詳細については、www.deloitte.comをご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド（“DTTL”）、そのグローバル ネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人が本資料をもって専門的な助言やサービスを提供するものではありません。皆様の財務または事業に影響を与えるような意思決定または行動をされる前に、適切な専門家に相談ください。本資料における情報の正確性や完全性に関して、いかなる表明、保証または確約（明示・黙示を問いません）をするものではありません。またDTTL、そのメンバーファーム、関係法人、社員・職員または代理人のいずれも、本資料に依拠した人に関係して直接または間接に発生したいかなる損失および損害に対して責任を負いません。DTTLならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。

Member of
Deloitte Touche Tohmatsu Limited

© 2024. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.



IS 669126 / ISO 27001



BCMS 764479 / ISO 22301

IS/BCMSそれぞれの認証範囲はこちらをご覧ください
<http://www.bsigroup.com/clientDirectory>